

(1) 出題方針

英語は例年どおり、長文二題(合計 150 点)と会話文一題(50 点)の構成(合計 200 点)で出題した。長文問題の本文は最近の英語圏で出版されている新聞、一般雑誌、学術雑誌、学術機関、書籍などからの一部抜粋で題材は多岐にわたるが、理系や文系など各学部と比較的沿った内容となるよう配慮し、受験生の学習・努力が報われるような出題を意図した。本文は出典の著作権を遵守しているためアメリカ英語、イギリス英語のまま原文に基づくが、文法や語のミスなどは修正した。また、難易度が高すぎると思われる単語や成句、および専門的な用語、事柄や概念には原則的に注をつけて、内容に関する特別な知識がなくても問題のないよう留意した。

長文問題は一題が約 700~1000 語で、二題の合計語数が 1700~1800 語程度になるように調整し、語数が比較的多い場合は設問の難易度レベルで他の問題と大きな差が出ないように意図した。また、二題のトピックは、バランスを取って組み合わせた。長文問題は、語彙や構文などに関する知識や総合的な読解力を問う設問を中心に、前置詞や接続詞の空所補充問題、単語・句・文の意味・内容が近いものへの置き換え問題、整序英作文問題、本文の意味・内容に合致する文を選択する内容一致問題、および二題のうちの一題から英文和訳問題を出題した。今年度は例年あまり出題されない設問を二問出した。一つは各セクションの副題を問う問題で、もう一つは文中に数回出てくる副詞を問う問題である。

空所補充問題および置き換え問題は、文脈に照らして最も適切なものを選択するものが多く、熟読せずに単に選択肢から解答すると正解に至りにくいように選択肢を慎重に構成した。整序英作文問題では文法や構文の理解力が問われるだけでなく、文脈に沿って理解する深い読解力が求められる。内容一致問題では、本文の意味・内容に合致するか否かの根拠が本文中に示されているため、問題文が本文のどの部分に関係しているか、論の構成や展開がどのようなようであるかを正しく把握して読み進める力が求められる。内容一致問題の中には、本文中の一箇所だけの記述を見るのではなく、複数の箇所を読んで総合的に判断しなければ解けないものも含まれている。

会話文の語数は平均して 550 語程度である。英会話文は、日常的に想定できる様々な場所と環境を設定して、オリジナルの会話を作り上げている。設定された場面や登場人物の人間関係を把握し、会話の流れを正確に理解することが求められる。会話における自然な会話表現を理解すると共に、和文英訳問題ではそれを英語で表現する能力を求めた。

(2) 解答状況および解説

熟語や語の用法を問う前置詞、接続詞などの空所補充問題の平均得点率は例年通り概ね高かった。得点率が低かったものの多くは、文脈から判断して答えを選ぶ置き換え問題であった。置き換え問題でも平均得点率の低かった問題は、概ね文脈の正確な理解なしには正解できないものである。置き換え問題は、選択肢が辞書に載っているような成句から作られていない場合が多く、選んだ答えに置き換えた場合に本文の論理的整合性が保たれるかを理解した上で解答する能力が求められる。

整序英作文問題は、文法能力、構文理解能力、語彙力などを問う問題となっているが、文脈を理解しなければ意味が通るように単語を入れることができないように空所が構成されている。英語構文や成句の知識をしっかりと修得しておくことのみならず、読解力に基づいた総合的的作文能力が求められる。内容一致問題は、概ね本文の流れに沿って順番に設けられているが、その部分だけでなく本文全体の要旨や論旨の展開を把握していなければ解けない問題もある。長文二題の最後の方にある内容一致問題の読解には時間がかかるため、長文を読み

進める時に慎重に時間をかけて取り組む必要がある。

会話文問題の会話表現を選択する問題においては、会話の流れを把握する力と会話表現を理解する能力が必要である。短い時間の会話の中に、トピックがあり、その中で状況や心情の変化が描かれているので、それらを読み取る能力が必要である。

英文和訳問題と和文英訳問題の受験生全体の平均得点率は日程により多少の違いはあるが、理系学部と理系型入試を実施する学部などで低い傾向にあった。語彙に関する問題の得点率が高いにも拘らず訳出問題の得点率が低い傾向に鑑みれば、単語や成句を単に暗記するのではなく、文法や文構造を正しく理解して運用する能力を養う必要があるといえよう。英文和訳の訳出の際にはいくつかの方法があるが、部分的には訳出している、全体からすると意味をなさない日本語訳も散見された。また、和文英訳の問題は、会話の文脈の中での正確な理解力と自然で平素な英語表現能力が求められる。

(3) 受験生へのメッセージ

上記のように、本学の英語入試では、主として長文の論旨や論理的構造を正確に把握しながら、著者が掲げる意見を正しく把握する能力、的確な語彙選択、および構文による訳出の能力があるかどうかを問う。本学での語学教育や教養教育ではその能力を基に思考力の涵養とコミュニケーション能力の養成に力を注ぐため、その基盤が入学前に培われているかどうかと問われていると考えていただきたい。

以下に受験準備のアドバイスをいくつか挙げておく。

- ① 長文問題の読解には多くの集中力と持続力が必要となる。日頃の授業を大切にす。
- ② 過去の入試問題に取り組み、語彙、構文力を培いながら読解力や訳出力を伸ばす。
- ③ 長文問題の本文は、最近の雑誌、新聞、書籍などから抜粋し、トピックは多岐にわたる。普段から時事問題や話題のトピックにも関心を持つようにする。
- ④ 長文を読む際には、段落のつながりと著者の意見を意識して読む。段落の冒頭の主題となる文(トピックセンテンス(topic sentence)/キーセンテンス(key sentence)といわれる文)で文意を把握し、段落ごとの関係を意識して読む。
- ⑤ 長文問題の熟読に時間を要するかもしれないため、最後の会話問題については短時間で文脈に沿った正しい解答を選べるよう、日頃から英語のコミュニケーション能力を養っておく。
- ⑥ 長文から出される英文和訳問題を解く際のポイントとしては、英文の構文を理解して、文法知識を活かし、語彙と成句を認識する必要がある。しかし、それらを機械的に羅列するのではなく、簡潔にまとめて自然な流れの日本語に訳す能力が求められる。日頃から日本語能力もつけておく必要がある。
- ⑦ 会話文から出題される和文英訳では、構文の選択(例えば、複文にするのか重文にするのか、接続詞、動名詞、不定詞を用いるなど)や単語や成句の選択などが的確にできる能力が必要とされる。また、スペルや時制などのミスは減点の対象となるため、日頃から、英語で作文をする習慣をつけ、語彙は日頃から書いて覚える。試験ではケアレスミスをしないよう注意する。

英語入試問題の勉強は容易ではないが、英語はグローバルで多様な社会へのチケットである。入学試験は大学に入るためだけでなく、その社会への第一歩だと思ってほしい。その気持ちをもって英語の勉強に励んでいただきたいと願っている。

◆英語◆ 出題の意図

101	出題の意図
[I]	<p>本出題文は、Popular Science に掲載された文章で、宇宙開発が生み出す地球環境への影響、特に海底に埋没する宇宙ゴミに関して記したものである。NASA や国際宇宙ステーションの声明や報告が書かれているので、論理をしっかりと追って読むことが重要である。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E の内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせるができるかを問うた。また、英文和訳では構文を理解できるか、that の多様な語法を理解できるかを問うた。</p>
[II]	<p>本出題文は、BBC Science Focus に掲載された文章で、健康と幸福、すなわち肉体的な健康と精神的な健康の相関関係を記したものである。現代人が抱える深刻な問題を解説しているので、身近な話題として理解できる文章である。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。特に整序英作文の問題は多角的に問題をとけるかどうかを問うた。II-E の内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせるができるかを問うた。</p>
[III]	<p>大学に入学した学生が大学近くに住む伯母の家を訪問して、子供時代からの思い出であるホームメイドのレモネードの話をする会話である。途中で大学の話からレモネードの話にスイッチする点、最後にまた大学の話に戻る点など話題が変わるところを理解する必要がある。また、和文英訳では適切な主語を選ぶこと、文章構造を想定すること、英語の日常的な表現「～ほど」や基本的表現「できるだけ」などを的確に表現できるかどうかを問うている。</p>
102	出題の意図
[I]	<p>本出題文は、Psychology Today に掲載された文章で、人と自分を比較することがどのような意味を持つのかを解説している。空所補充、語彙、節・句の言い換え、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E に各セクションの副題を問う設問を入れることで、論理的思考と内容把握を問うた。I-F の内容一致問題では、文章中に出てくる人名などを出すことにより、本文の該当箇所と照らし合わせるができるように工夫した。</p>
[II]	<p>本出題文は、The New York Times に掲載された文章で、モザンビークで牙のない象が増加している現象について書いてある。空所補充、語彙、節・句の言い換え、空所補充型整序、内容一致、英文和訳を出題し、II-C では単語自体は理解できても文章中での意味を文脈から推測できるかを問うた。II-D の整序英作文のポイントは、短い文章の中で三か所の続く空所を文法や語彙の知識からだけでなく、文脈から推測できるかと問うた。II-E の内容一致問題では場所や事象、人名を入れることで、出題部分ができるように工夫した。II-F の英文和訳では、簡単そうに見える短文であるが、主部、be likely to がきちんと訳せるかなどを問うた。</p>
[III]	<p>本出題文は、友人二人がゴールデンウィークの過ごし方を話している会話で、その話題の中心がガーデニングになっていく。一人がガーデニングが得意とする友人に感化されていく話であり、ガーデニングの技術的なことなども書かれているので、わかりにくい語や成句には定義を書くことで理解しやすいように工夫した。和文英訳は、適切な構文を作り上げることができるか、また適切な主語を見つけることができるかを問うた。</p>

103	出題の意図
〔Ⅰ〕	<p>本出題文は、European Journal of American Studies に掲載された文章で、日系二世のアメリカ人写真家たちがアメリカに日本的な精神を読むことが重要である。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、さらに整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E の内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせるができるかを問うた。</p>
〔Ⅱ〕	<p>本出題文は、Knowable Magazine に掲載された文章で、植物と地質との関係性を記している。特に植物が地質に与えた結果泥地を作り出し、河川の形成や経路が変化することを挙げている。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文では、概ね各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し、判断できるかを問うた。II-C の置き換え問題では、一見簡単そうな表現が理解できているかどうかを問うた。また、II-F の英文和訳では、構文を理解した上で、As の意味を理解して、的確な文章で表現できるかどうかを問うた。</p>
〔Ⅲ〕	<p>本出題文は、図書館が土曜日の臨時閉館した時に、そこで出会った二人の会話である。図書館の現代的な設備から利用方法までが説明され、図書館の意義が再認識されている。比較的よく話題になるテーマでもあり、また身近な図書館の話でわかりやすかったと思われる。和文英訳は、英語の自然な表現にするために構文を考え、主語を定めて、さらに「刺激が受けられる場所」を会話で用いられる表現にすることが求められた。</p>
104	出題の意図
〔Ⅰ〕	<p>本出題文は、Los Angeles Times に掲載された文章で、会話の隙間を埋めるつなぎの言葉に関して言語学および言語人類学の見地から述べたものである。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文では、概ね各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し、判断できるかを問うた。I-C の置き換え問題では、後の用法と語順を正確に認識する必要がある。また、I-E の内容一致問題では、本文に出てくる具体例や数字などを入れることで、本文の該当箇所と照らし合わせて考えることができるように工夫した。</p>
〔Ⅱ〕	<p>本出題文は、Science News for Students に掲載された文章で、印刷されたものを読むこととデジタルテキストを読むことの違いと読む際に脳がどのように機能するかを論じている。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。II-C の置き換え問題は、文脈から補うべき情報を理解しなければ解くことができない。II-F の英文和訳は、物質主語を持つ文章をどのように訳すか、また省略されている語を補って考え訳すことができるかを問うた。</p>
〔Ⅲ〕	<p>本出題文は、公園でランニングをしている大学生が高校時代の体育の教師に出会って交わす会話である。高校の頃の懐かしい話から大学に入学した後に新たに始めたボクシングとその基礎トレーニングの話になっていく。その内容が変わっていく点をきちんと把握して理解することが必要である。和文英訳問題では、「～すればするほど」を適切な構文に当てはめ、さらに複雑な長い文章にせず自然な会話表現ができるかどうかを問うた。</p>

105	出題の意図
〔Ⅰ〕	<p>本出題文は、Max Planck Society のホームページに掲載された文章で、ピアノなどの楽器で音楽を奏でる際に脳がどのように機能しているかを論じたものである。難解な部分もあるが、論理的に書かれている。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文の問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-B は本文中に同じ副詞が数回でてくることから作られた問題である。I-D の置き換え問題には、内容を深く把握していないと説くことが難しいものも入っている。I-G の英文和訳では、全体の構文が理解できているか、"whether...or..."を含む主部をきちんと訳することができるかが問われている。</p>
〔Ⅱ〕	<p>本出題文は、Investigating Culture: An Experiential Introduction to Anthropology という本に転載された文章の一部抜粋で、20世紀後半に流行した健康食、特に菜食主義に関して論じている。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文、内容一致問題を出題し、各々文脈を正しく理解し判断できるかを見た。II-C の置き換え問題では、英語特有の表現を文脈から理解できているかどうかを問うた。また、II-D の整序英作文では、構文と文法が理解できているかを問うた。II-E の内容一致問題では、起こった事柄や具体的例などを取り入れて、本文と合致しているかどうか分かるように工夫した。</p>
〔Ⅲ〕	<p>本出題文は、友人二人がカフェで会い、アップサイクリングの話題へと移っていく様子が描かれている。アップサイクリングに精通している友人にアップサイクリングを紹介されて、それを取り入れようとする変化を読み取る必要がある。現在話題になっている SDGs を取り上げており、アップサイクリングの定義や例などが書かれている。その内容を理解していくと会話の流れがわかるように工夫されている。また、和文英訳は、条件や仮説をどのように表現するべきか、また「着ることができ」や「おしゃれにすることができた」という文言を会話における自然で簡潔な表現をすることが求められている。</p>
106	出題の意図
〔Ⅰ〕	<p>本出題文は、The Quarterly Journal of Economics に掲載された文章で、じゃがいもが発見されて世界中に広まり、食用として重宝されていった歴史とその過程が書かれている。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文、内容一致問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。特に I-C の置き換え問題では、表現および構文の特質と文脈を正確に把握しているかどうかを問うた。また、I-D の整序英作文では、重要成句や前置詞の使い方と文脈の理解を問うた。I-E の内容一致問題においては、比較的平易な文章であるが正確に文脈を捉えられているかという能力を問うた。</p>
〔Ⅱ〕	<p>本出題文は、Nature に掲載された文章で、現代から近未来には必要とされる電気自動車に関する内容である。問題 I と同様、空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文問題、内容一致問題では、概ね各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し、判断できるかを問うた。II-C の置き換え問題では、平素な英語に置き換えて文脈を理解する能力を問うた。II-D の整序英作文問題では数字がヒントとした。また、II-F の英文和訳では、構文は複雑ではないが、句の切れ目をどのように理解してまとめていくかという能力を問うた。</p>

【Ⅲ】	<p>本出題文は、友人二人が大学への電車通学の中で交わす会話であり、その中でポッドキャストが電車通学では有益だと語られる。ポッドキャストに精通している友人が、その定義を行い、どのように使うか、娯楽だけでなく勉強にも使うことができるということを述べていくことを理解することが必要である。和文英訳では、どのような構文を使うか、また「聞き漏らす」という日本語をどのような会話における平素な英語表現にするかという能力が問われる。</p>
107	<p>出題の意図</p>
【Ⅰ】	<p>本出題文は、Extraordinary Insects という書物からの一部抜粋で、地球の気候変動により昆虫がどのような影響を受けるかが書かれている。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文の問題、内容一致問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。I-E の内容一致問題では、出題文の論旨を理解して本文の該当箇所と照らし合わせることができるとかを問うた。I-F の英文和訳では、構文と関係代名詞節を理解して訳すことができるかという点などが問われる。</p>
【Ⅱ】	<p>本出題文は、The Conversation に掲載された文章で、オーストラリアのカササギフェガラスの習性を述べたものである。鳥類などに関する注が多くなったが、難易度が高いわけではなく、論理的にわかりやすく書かれている。空所補充、語彙、節・句の言い換え、置き換え問題、整序英作文の問題、内容一致問題では、各々の該当箇所の前後の文脈を正しく理解し判断できるかを見た。II-D の整序英作文問題では、短い文章の中で解答を探す能力を問うた。II-E の内容一致問題では、本文に書かれているリサーチに関する内容が理解できているかどうかを問うた。</p>
【Ⅲ】	<p>本出題文は、母親の誕生日パーティーを開く準備をしている人とそこにパーティーを手伝いに来た友人が交わす会話である。友人の助けをかりて、時間までにパーティーに出す料理を作っていく過程が描かれている。和文英訳は、時間差を考慮して時制を正確に書くこと、構文を確定すること、そして「～ではないかと心配です」を自然な英語表現にする能力を問うた。</p>